

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人愛成会	代表者	理事長 佐々木 哲	法人・事業所の特徴	法人の「愛・行動・感謝」という基本理念に基づき、事業所として『私たちは、利用者様一人ひとりを【尊重】し、【自分らしさ】と【生きがい】を持って、安心した暮らしが継続できるよう支援します』の理念を掲げ、ご利用者様にとって安心と信頼を得られる福祉サービスの実践に努めます。
事業所名	小規模多機能ホーム 自由ヶ丘	管理者	齋藤 大輔		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	人	1人	人	4人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	地域において事業所の存在価値を高めるべく、地域に出向いての取り組みを検討し実現する。	隣の自由ヶ丘町会の事業所と合同で、「認知症を学ぶ会」と称し、認知症サポーター養成講座や介護相談会を企画し開催することができた。	事業所だけで支えるのではなく、利用者を取り巻く環境(民生委員や地域資源)にまで目を向けなければいけないことは大変だと思う。	地域の方が気軽に相談や協力を依頼できる開かれた事業所となるべく、地域に向けての情報発信や協力を実施していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、利用者一人一人がくつろげるような環境作り(交流状況を考慮した席決め含む)や、感染症予防のため密にならないような工夫をし、心地よく過ごせるように常に意識し対応する。	事業所内をクリーンな空間とすべく、検温や検査の実施、状態に応じて利用を控えていただいたり隔離対応するなど、BCP(業務継続計画)に従い対応することで、新型コロナの感染者が出てくもクラスターにならずに拡大を食い止めることができた。	感染状況に応じて家族や業者の出入りを制限したり、利用者においても検温の結果では利用を控えてもらったり個室対応するなど、常に感染症に配慮し事業所内をクリーンな空間とすべく対応していることが分かった。	快適(居心地のよさ)と安全(感染対策)の両立を意識した環境作りを常に意識し取組む。
C. 事業所と地域のかかわり	Instagramでの情報発信頻度を増やすことと、パンフレットの設置場所を増やすことで事業所の存在と機能、役割を継続的に周知理解を求めていく。	パンフレットはリニューアルし、より事業の特徴が分かりやすいものにできた。協力いただいた事業所5ヶ所に設置していただいている。Instagramは現在フォロワー数が1200人弱まで増え、情報発信ツールとして益々期待できるものとなっている。	・Instagramの活用が定着し、取組みなどがタイムリーに情報発信されていることは良いことだと思う。 ・介護業界に魅力を感じていない若者に向けてアピールすることができるツールであるため、業界に若者を呼び込むためにもぜひ頑張って発信を続けてほしい。	デジタル(SNS)とアナログ(パンフレット)の両方を有効活用し、事業所の存在と機能、取組みを継続的に発信していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	支援や介護が必要になったからといって出かけることをあきらめるのではなく、感染対策を継続しながら、利用者の希望や思いを叶えられるようにする。	感染状況と感染対策を意識しながら、新型コロナウイルスが流行してからはできていなかった利用者それぞれの希望を叶える外出の機会を、少数で外出することで実現することができた。	新型コロナウイルスの影響はもちろんあるが、地域住民の高齢化や子どもの減少も相まって地域の行事が減少している状況にある。そんな中、夏休みのラジオ体操にはよく参加してくれたと感じている。	常に感染対策や感染状況を把握しながら、利用者も職員も積極的に地域に出向く機会を確保していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を有効活用し、金属団地町会での「認知症を学ぶ会」の開催を実現させる。	自由ヶ丘町会に引き続き、金属団地町会でも「認知症を学ぶ会」の開催を計画しようとしたが、引き続き新型コロナウイルスの陽性者が慢性的にでていくことと、インフルエンザの流行もあり、また、業務の煩雑さから実現には至らなかった。	感染症等の状況や業務の煩雑さから「認知症を学ぶ会」を開催できなかったことについては、現在利用している利用者を優先するためにも仕方ないことだと思う。	運営会議を有効活用して地域のニーズを把握し、ニーズに合った取り組みを検討し実現する。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>BCP（業務継続計画）を策定し、災害や新型コロナウイルス等の感染症が発生した際の職員個々の役割や動きを明確にすることで、業務を停滞させることのないようにする。</p>	<p>昨年度、ガス発電機を設置した後に数度あった停電時に、最低限の電力を確保できることを確認し、福祉避難所として、地域の防災拠点として機能強化を実感することができた。</p>	<p>金属町は水害や土砂崩れの危険地域ではないが、それ以外にも雪害や台風などもあるため、連絡を密に取り合っていければと思う。</p>	<p>災害発生時には町会に対して物的、人的に支援できるよう、町会長と連携を密にしていく。</p>
----------------------------	--	---	--	--